

一第5回検討委員会説明資料一

国立天文台周辺地域土地利用整備計画 検討委員会のとりまとめ（案）

令和7年12月22日



3回のワークショップを通じて、みんなの持つおおさわコモンズのイメージを配置案の考え方(案)としてまとめました。

地域の共有地「おおさわコモンズ」の在り方、使い方 ～地域の人が集まり、利用しやすい共有地にするために～

WS 1

みんなが集う
地域の共有地
「コモンズ」
ってどんなところ？

WS 2

地域の共有地となる
地域交流スペース
や機能
ってどんなのだろう

WS 3

WS1・WS2の意見
を踏まえた
配置案へのご意見
(ゾーニング)



主
機
能エ
リ
ア
方
針全
体
イ
メ
ジ

①天文台の「森の学校」

②みんなが集う地域の共有地

③天文台の森(北側)の次世代への継承

④命と暮らしを守る防災拠点

第七中エリア

- ・既存の校舎等を活用するエリアです。
- ・施設づくりエリアと一体となつた教育環境を整備します。

一
体
的
利
用施設づくりエリア

- ・「おおさわコモンズ」の施設をつくるエリアです。
- ・健全な大径木を可能な限り保全します。
- ・周囲に植樹し、自然と調和した施設配置を行います。
- ・七中エリアと一体となつた教育環境を整備します。

一
体
的
利
用緑地保全エリア

- ・まとめた緑を保全するエリアです。
- ・森の中を通る通路を整備します。
- ・国立天文台と管理方法等を協議します。

おおさわコモンズ

※緑地保全エリアの保全方策は、国立天文台との協議中です。

第七中エリア

3 第2回検討委員会のまとめ『みんなが集う地域の共有地「コモンズ」』

みんなが集う地域の共有地「コモンズ」で目指したいイメージとして、大きく以下の8つの考え方を出していただきました。

目指したい
イメージ1

地域のみんなで交流できる場を持ち、多世代が多様に関われる

目指したい
イメージ2

多様な子どもの居場所とし、安全で安心してのびのび過ごせる

目指したい
イメージ3

豊かな自然を手入れし、春夏秋冬を感じられる体験の場へ育てる

目指したい
イメージ4

開発段階から住民が参加し、場を使うことで、地元愛を育む

目指したい
イメージ5

日常的な防災拠点で地域がつながり、災害時にも対応できる

目指したい
イメージ6

医療福祉、行政サービス、相談窓口等で高齢者も子育ても安心できる

目指したい
イメージ7

天文台を活かした異文化交流・国際交流ができる

目指したい
イメージ8

屋内外のイベントやスポーツ等多様な地域利用が柔軟にできる

エリア・ゾーン		第3回検討委員会の意見を踏まえた、今後の検討の方向性(案)
施設づくりエリア（第七中エリアと一体的に検討） 学校	普通教室	普通教室数は、児童・生徒数の変動にも対応できるよう検討する。また、一体的なオープンスペース等も検討する。一体的な学校づくりのために、渡り廊下など 七中と新校舎との接続 も検討する。
	特別教室（準備室含む）	授業で使っていない時間に、地域活動や中高生の学習スペースなど多様な地域利用 がしやすいよう、 特別教室は1階配置を原則 に、児童生徒と交わらないようICT技術等で空間を分離する。また、特別教室や体育館等を地域開放する場合は、原則 登録者のみに限定 とともに、 管理人の配置も含め 、セキュリティ対策を検討する。
	管理諸室	職員室は全職員が集まる ようにしつつ、地域開放を担う 管理人との連携 を図りやすい位置への配置を検討する。
	体育館・プール・学校図書館	新しい学校施設の整備を核に、 七中の既存施設の改修・活用 も含め一体的に検討する。また、 学校図書館と地域図書館の連携 を前提とした整備を検討する。なお、 体育館・プールは地域開放 を検討する。
図書館等	地域図書館・その他	『 滞在交流型の図書館 』を中心に、カフェや談話スペース、学習スペース、未就学児スペース、作品展示スペース、シェアスポット、掲示板など 多世代の地域交流スペースの併設 を検討する。地域図書館等の一般利用者が児童生徒と施設内で交わらないよう、 学校ゾーンとの空間分離 を検討するとともに、屋外もフェンスや植栽で仕切るなど、校内に 一般利用者が入りにくい設え を工夫する。
	グラウンド・広場	グラウンドとして必要な面積・機能及び保存すべき樹木の維持を前提に、グラウンドや広場では学校行事や地域の催事、地域開放時に使用できる 屋外ステージ を検討する。
	コモンズ駐車場	必要最低限の駐車場 とし、日常的な 駐車場の出入り口を天文台通りに限定 できるか検討する。
緑地保全エリア	里山ゾーン	子どもとともに里山をつくり 、学校と地域で育てる 学校農園 も検討する。また、多様な地域利用が可能な 広場も確保 しながら、 防災やモノづくり 等に日常から触れられる場づくりを検討する。
	散策・観察ゾーン	見通しのきく明るい地域の散歩コース として整備を行い、 読書スペースやベンチ、屋外作品展示、地域で利用できる小さなスペース （例えば、フリースペース・チャレンジショップ・地域運営の売店・カフェ）などの配置を検討するとともに、沿道にて 生物や植栽等を観察 できるよう、検討する。地域開放内の遅い時間でも安全に歩けるよう、 夜間照明の設置 に加え、 夜間時の防犯対策 を検討する。
	現状維持ゾーン	※現在の自然環境を保つ区域として、一般の立ち入りは想定しないゾーンであるため、検討しない。

5 第3回検討委員会のまとめ『地域の共有地となる地域交流スペースや機能』

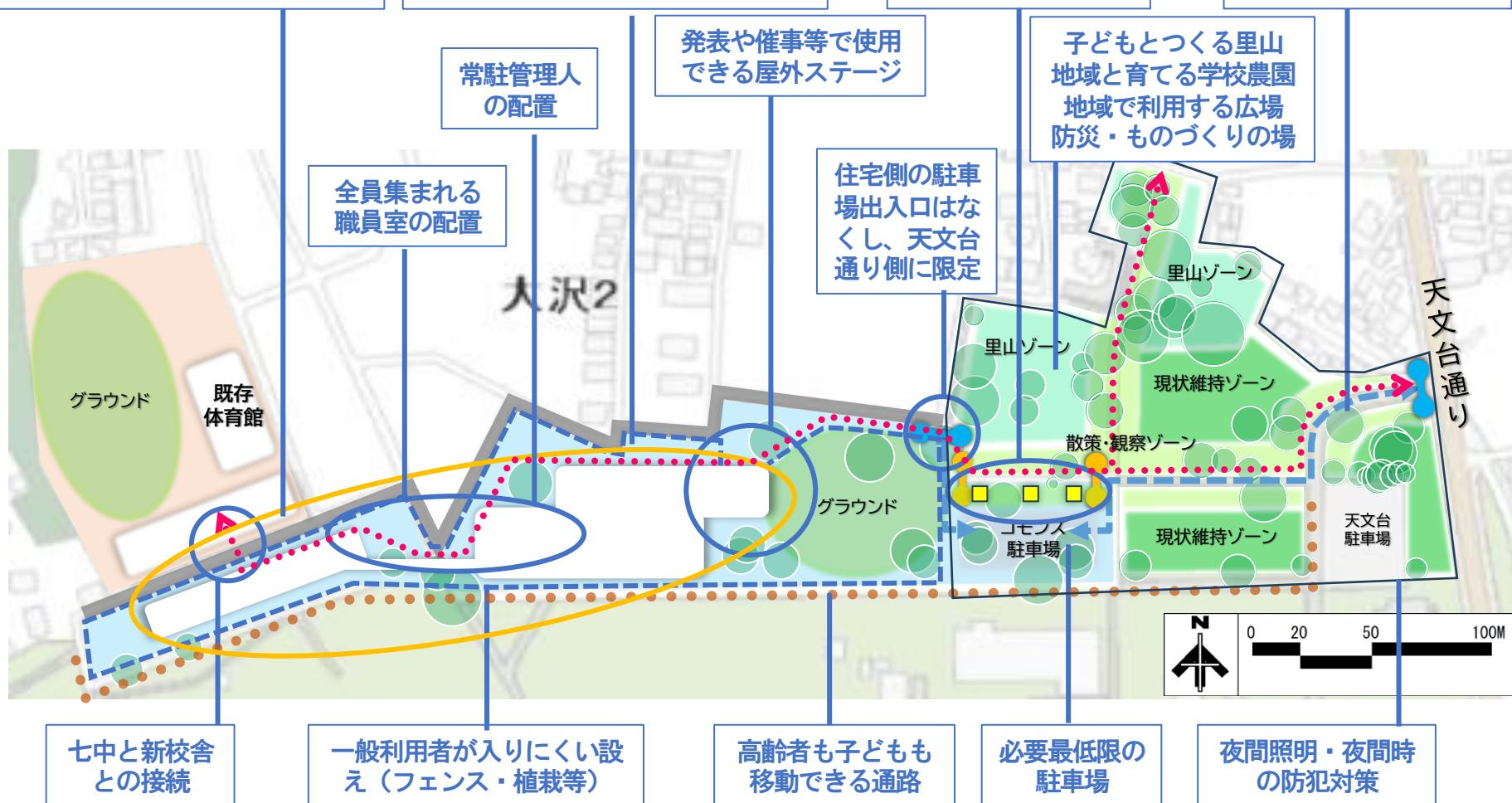
■今後の検討マップ

特別教室は授業で使っていない時間の中高生の学習スペースや多様な地域利用できるよう、1階に配置し、ICT技術等で空間を分離。利用者は登録者のみに限定。

『滞在交流型の図書館』を中心に、多世代の地域交流スペース（カフェ・自習・未就学児・作品展示等）を併設し、学校ゾーンとは空間分離

地域で利用できる小さなスペース（売店・カフェ・チャレンジショップ・フリーースペース）

生物や植物などを観察できる散歩コースとして、見通しよく明るく整備し、読書スペースやベンチなどを配置



6 第4回検討委員会のまとめ（配置案へのご意見）

配置案への主な意見は大きく4つに大別し、整理。地域利用との関係については、イメージAの考え方方がよいものの、既存校舎やグラウンドは義務教育学校として学年のまとまりにより、配置の考え方方が変わるため、今後整理が必要。 ◎3案の中で最もよい、○比較的よい、△3案の中で最も課題がある

地域図書館 配置別	イメージA 東側	イメージB 中央	イメージC 西側
第七中と新校舎(普通教室)との関係	◎第七中と普通教室が近く、交流しやすそう。	△第七中と普通教室が遠く、交流しにくい。 ※ただし、小・中学生で距離を置く計画であれば、支障はない。(◎)	○第七中と普通教室が概ね近く、交流しやすそう。 ※ただし、小・中学生で距離を置く計画であれば、支障はない。(◎)
グラウンドと新校舎(普通教室)との関係	△西側(1、2階)の普通教室が新グラウンドまで遠い。 ※ただし、七中グラウンドの利用も想定すれば、支障はない。(○)	◎普通教室が新グラウンドに近い。 ※ただし、新校舎に中学生も混在する場合、グラウンド利用が課題(△)	○西側(2階)の普通教室が新グラウンドまで遠い。 ※ただし、七中グラウンドの利用も想定すれば、支障はない。(○)
地域利用との関係	◎地域図書館が天文台通り側・緑地保全エリアとの連携・駐車場が近く車いすの方なども利用しやすそう。	○地域図書館が天文台通り側で緑地保全エリアも駐車場も比較的近く、地域図書館と連携しやすそう。	△地域図書館が天文台通り緑地保全エリア・駐車場から遠い。
セキュリティとの関係	△～○セキュリティが高そうであるが、地域動線との重なり等、課題は残る。	△～○セキュリティが煩雑になりそうだが、2階普通教室はよい。	△～○セキュリティが高そうであるが、地域動線との重なり等、課題は残る。

各班で出された提案内容を踏まえた配置の考え方（案）**【第七中と新校舎との関係】**

- 普通教室は、義務教育学校として各学年をどのように配置し、どのように交流を促すかにより、第七中との関係性が変わるため、継続した検討が必要。
(小中学生で敷地を分けるか、混在させるかで学校の在り方も変わる)
- 子どもたちの安全性確保のため、新校舎と第七中をつなぐ渡り廊下が必要。
- 特別教室は1階に配置することで、子ども・地域の利用が感じられるようにする。

【グラウンドとの関係】

- グラウンドは第七中側と新校舎側の2つの利用を前提に、グラウンドとの距離に配慮した位置に普通教室を配置。

【地域利用との関係】

- 地域図書館は、学校生活を最優先に、多様な方の利用を想定するとともに、緑を活かした空間とするために、敷地東側に配置する。
- 一般利用を想定したプールを配置し、暑さ対策として屋内化も検討

【セキュリティとの関係】

- 1階は地域も利用する機能(地域図書館、特別教室等)を配置し、2階以上に普通教室を配置することで、階層的なセキュリティラインを設定。
- 学校の地域開放については、子どもが使用していない時間帯等、時間により子どもと地域のセキュリティラインを分ける